

# 共に

塩尻市生涯学習部男女共同参画課

塩尻市大門七番町四番三号

TEL：(0263) 52-0280 内線3151

FAX：(0263) 54-2705

Eメールアドレス：kyoudou@po.city.shiojiri.nagano.jp

## 「働く場における男女の職場環境」 アンケート結果 男女共同参画推進事業から



農家の方々と大豆の収穫体験をする園児

- も P 2……「働く場における男女の職場環境」アンケート結果
- く P 3……男女共同参画推進事業から
- じ P 4……日本女性会議参加報告 男女共同参画課から 編集後記

「働く場における男女の職場環境」アンケート調査を  
塩尻市内の事業所（従業員10人以上と思われる事業所を対象）に  
実施いたしました。（一部掲載）



- ◆女性管理職の状況は？
- ◆育児休業制度の導入率は？  
〔回収率 37.2%〕

これからの男女共同参画事業の参考にさせていただき、様々な取り組みを行っていきます。

……詳しい結果は、今後塩尻市役所ホームページで掲載いたします。……

1 女性の管理職は何人いますか？

○管理職の割合 女性管理職は6.9%



（回答事業所の合計数）

管理職数	男性	女性
662人	616人	46人

2 女性管理職が増えない（少ない）のはどのような理由からですか？

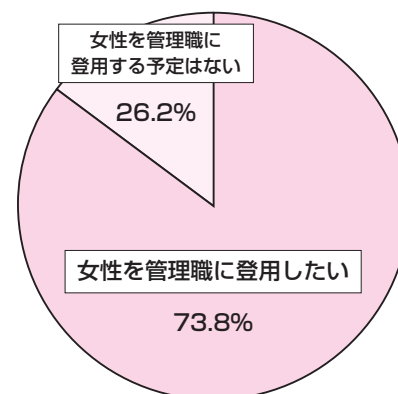
（上位3位まで掲載・複数回答あり）

- 1位 32.0% 管理能力の面で必要な知識や判断力を有する女性の適任者がいない（少ない）
- 2位 26.2% 女性自身が管理職になることを望んでいないことが多い
- 3位 23.7% 女性は勤続年数が短く、管理職になる前に退職し人材として育たない

3 これから女性を管理職へ登用することについてどのようにお考えですか？

○女性を管理職に登用したい 73.8%

「男女の区別なく管理職へ登用したい」や「女性に適した場所と思われる職種や業務については登用したい」と回答した事業所が7割強を占めます。



4 育児休業制度を導入していますか？

○導入率 77.0%

全従業員数6,062人（調査した従業員合計数）の内、取得した従業員は過去1年間で、36人（女性35人・男性1人）でした。



# 男女共同参画推進事業から

やさしく女と男推進講座

9 / 24

## “仕事と生活の調和を目指して”

講師 財21世紀職業財団長野事務所所長 長坂広子さん

日本は今、少子高齢化を迎え、社会・経済において大きな課題を抱えている。現在、還暦を迎えている団塊世代の方々の、生まれた時の※出生率は4.32で、その後減り続け去年は1.32であった。出生数もずっと右肩下がりである。今まで男性は仕事、女性は家庭という仕組みを作ってきたが、男女共に家庭を守り仕事もする、という仕組みを作っていないと、活力ある日本を維持することが出来なくなる。そこで、男性も女性も仕事や家庭をバランスよく行う環境、WLB（ワーク・ライフ・バランス）が大切になってくる。平成19年12月、WLB憲章が制定された。これは仕事と仕事以外の生活が自分のライフステージで、希望するバランスで生活できることをいう。すなわち柔軟な働き方や多様な働き方が出来る社会である。



そのような社会をぜひ目指しましょう。

※出生率（合計特殊出生率）…1人の女性が一生の間に産む子供の数の平均、2.08以上だと人口は増加、それ以下だと減少

女と男21世紀セミナー講演会

10 / 4

## “塩尻のまちづくりを考える”

講師 日本政策投資銀行地域振興部参事役 藻谷浩介さん

人の考えは10人10色、仕事より家事が得意な男性もいれば、仕事は出来るが家事はだめ、という女性もいる。一般的に男性・女性で区別は出来ない。一人一人の個性は違う。“違いを大事にして誰もが幸せをつかめる社会をつくろう”これが男女共同参画の原点である。



現在、塩尻市の人口は6万人を超えている。また、同市の店舗は1990年代より1.8倍に増えた。しかし、市民の個人所得が減っているため総売上は減少し、市の経済も縮小し雇用も増えない。このような状態を打破するには、二つの方法がある。一つめは高齢者で技術をもっている人に働いてもらうこと、二つめは女性の働き手を増やすことである。現在の女性の就業率は45%、この比率を伸ばすため、就業環境を整えることが大切である。

楯川地区男女共同参画推進会議

11 / 3

## “男女共同参画社会の実現に向けて”

講師 元長野県男女共同参画センター所長 馬場よし子さん

塩尻市は他の市町村に比べると男女共同参画の先進地である。しかし、社会や地域の主要なポジションには圧倒的に男性が多い。どうしてかという、女性がそのような所へ出たがらないことと、家事・育児は女性がやるものだという固定観念が根強いからである。こんなに家事を女性がやっている国は先進国では珍しい。

男性も女性も二人でいい家庭、いい社会を作るにはどうしたらよいかを話し合っ欲しい。そして、“夫婦としてどんなふう生きていくか”等、大事なことをきちんと話し合うことが必要である。そうするためには、普段からお互いに感謝しながら生活していくことが大切である。いい関係を作っていけば肝心な話ができる。役割りを決めつけないで、お互い出来ることを活かしながらやってみましょう。



## 参加報告

小澤婦貴子

二千五百名の参加者の熱気溢れる中、日本女性会議が開催された。

内閣府男女共同参画局長の基調講演では、育児休業後の退職者の増加、正規・非正規社員間の給料格差などが指摘された。また、家庭の中のワーク・ライフ・バランスの見直しと、男女の関係は平等に、とお話された。

鹿嶋敬実践女子大教授は、男女共同参画社会の形成は、セカンドステージへ入ったことを指摘され、我が意を得たりの思いを強くした。理念はこの十年余りで浸透していると思われるので、身近な家庭・企業・地域などで、いかに実践・推進していくかこそが問われているのではなからうか。

また、資生堂副社長の岩田喜美枝氏からは、経営者はワーク・ライフ・バランスをコスト高と考えるが、社員の多様性を実現するためには欠かせないとして、男性社員の育児休暇をとりやすくする取り組みなどが紹介された。

分科会では、人口四百六人の石見銀山の小集落で、七軒の古民家を再生し起業してきた松場富美氏が、「地域起こしは自らの生き方の問題である。貧乏の中から、自分の人生のためにやったことである」とお話されたことに感銘を受けた。

榊田隆一郎氏は、岩瀬地区での街の景観を守りつつ、町並みの修復・再生を進めたお話をされた。郷土愛がないとできないことであるが、無理強いではなく、個々の家が修復に

動こうとするまで、粘り強く待った姿勢に好感が持てた。修復する若い大工の掘り起こし、芸術家集団を集められた手腕などにも感心した。

「風の盆」で有名な、富山市八尾町商工会女性部の小原はな子氏から、観光地の取り組みとして「ガイドブックの作成・行灯設置・伝説・民話の掘り起こし・観光ボランティアの育成など」のお話を伺った。観光客の増加が、商店街の売り上げの増加に結びつかないという現状も話された。

最後に加藤登紀子氏の歌と講演をお聞きした。女性力の発揮が、おかしくなったこの地球を救う、といった内容であった。

免疫学者の多田富雄氏は、「女性は実態だが、男性は現象」ということばを引用しながら、女性にエールを送ってくださいました。

十分な刺激を受け、脳が活性化された二日間であった。



## 編集後記

時代の移り変わりと共に、DV・デートDV・WLB等の問題を「共に」でお伝えしてきました。改善された部分もありますが、また、新たな問題に直面し、これからも問題を提起する必要性のある大事な情報誌だと考えています。  
(塚原勝代)

毎回多くの方と会い取材を重ねてきました。お忙しい中とても気持ちよくお話しをしてくださったり、撮影に協力していただいたり、当初の不安もどこへやら楽しい運びとなりました。ご協力いただいた皆様には感謝いたします。  
(大槻静子)

「ワーク・ライフ・バランス」この言葉を意識するようになってから、以前よりも時間を大切にできるようになりました。そして、心にゆとりが生まれ、笑顔が増えたような気がします。  
(小林道代)

この男女共同参画情報誌「共に」の編集に携わり、いろいろな勉強をさせていただきました。この大不況の中、様々な分野で弱い立場の女性が不利益をこうむらない社会であってほしいと願います。  
(川上博昭)

編集委員の任期は二年です。今回の編集委員の方々には45号〜48号まで編集していただきました。

## 相談の案内

お気軽にご相談ください

- 塩尻市女性相談 0263-54-0783
- 電話相談(月～金) 9:00～17:00
- カウンセリング(月・木・金) 9:00～17:00
- 塩尻警察署(生活安全刑事課) 0263-54-0110
- 県松本福祉事務所(松本合同庁舎内) 0263-40-1914
- 県配偶者暴力相談支援センター
- 県女性相談センター 026-235-5710
- 県男女共同参画センター(あいとびあ) 0266-22-8822
- 児童虐待・DV24時間 ホットライン 0263-91-2410

## 男女共同参画課から

男女共同参画推進のための情報誌「共に」の編集委員を公募します。詳細は3月1日付「広報しおじり」をご覧ください。